

拠出金名：アジア欧州財団(ASEF)拠出金

分担金・義務的拠出金の有無		有(外務省)		無	
当該機関等に対する分担金を含めた平成19年度の拠出総額				3,704,430千円	
国際機関等名	アジア欧州財団(ASEF) (英文名称・略称) Asia-Europe Foundation (ASEF)				
種別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	外務省経済局アジア欧州協力室				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千 )	レート	ODA率(%)
平成19年度	3,697,329	31,874		1米ドル = 116円	99.9
平成18年度	9,630	87		1米ドル = 111円	0.0
平成17年度	10,700	100		1米ドル = 107円	0.0
当該拠出金の目的・用途等	ASEFの実施する各種事業(新型インフルエンザ対策、各種セミナー等)				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2007年のもの)				国際機関等の財政 (2006年度決算)(シンガポールドル)	
	国名	金額 (千ドル)	拠出率(注) (%)	当該年度の収入	6,277,183
1位	欧州委員会	799	18.1	当該年度の支出	5,996,193
2位	ドイツ	328	7.4	次年度への繰越	18,436,030
3位	ルクセンブルク	284	6.4	会計検査機関名	
4位	デンマーク	275	6.2	Ernst & Young 社	
5位	中国	250	5.7	(シンガポール所在の監査法人)	
(2007年(注)、日本は17位、拠出率1.9%)				(現在の構成員の出身国:シンガポール他)	
当該機関等に対する我が国としての評価 (当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
ASEFは、ASEMの第3の柱(社会、文化、教育その他)において、アジア・欧州間的人的、知的、文化的交流のプロジェクトを行うことにより、両地域の交流を促進する重要な役割を果たしている。我が国からの拠出金はイヤマークされた分野の事業経費とされ、日本からの理事1名を含む理事会及び我が国の承認を得た上で適切に執行されている。					
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価					
ASEFでは、現在、事業数及び一事業あたりの経費を削減する等合理化の努力が行われているほか、人事・組織面での機能強化も図られている。また、財政運営及び今後の事業方針等については、日本からの理事1名を含む理事会執行委員会が精査し、合理的かつ効果的な財団運営に努めている。					
邦人職員数	0人		当該機関全体の職員数	46人	
うち幹部以上	うち 0人		及び邦人職員が占める率	0%	
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称		職員氏名		備考	
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
現状において具体的計画なし。					

(注)ASEFは2005年度までは我が国と同様の会計年度(4月-翌年3月)を採用していたが、2007年から会計年度が暦年(1月-12月)に変更されたため、移行期間である2006会計年度のみ、2006年4月~12月までと変則的になっている。なお、拠出順位、拠出率はASEF作成資料に基づき暦年で計算したもの。